

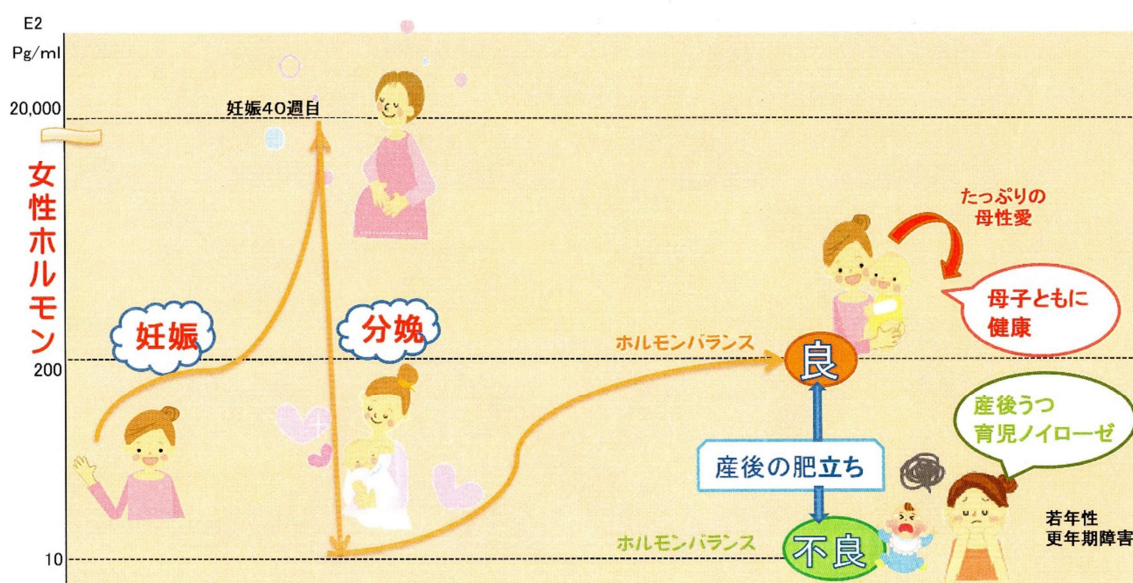
太田東西かわら版

おんころころ せんだりまとうぎ そわか

2024. 8

なかなか治らない原因は 「産後の肥立ち」

妊娠→分娩→産後 女性ホルモン値の推移



このイラスト図は、私が20年前に作成したものです。
長年太田東西薬局をご利用くださっているお客様には、見覚えありだと思います。この考え方で多くの“病める・悩める女性”を救って来ました。
どうしてなかなか治らないのか？ 健康回復できないのか？
それは今に始まったことではないから。“今にだけ”フォーカスしても根本原因が解決されないからです。根本から解決するためには「過去」にフォーカスして、「過去」を検証する必要があります。

20年前のその当時、80歳女性の症例は今でも忘れられません。めまいのご相談でしたが、どこに行っても治らない。大学病院からもサジを投げられた。早くお迎えが来てほしい・・・嘆かれています。もう50年近く、めまいで悩まされていました。名医がいると聞けば、九州圏内の耳鼻科に足しげく出向いた。しかし、なかなか治らない。

私はそのお客様に言いました。「おばあちゃん、産後にかかなり無理して来たでしょ？ 長年のめまいの原因は、産後の肥立ちだと思いますよ。産後の肥立ちがずっと良くないまま、50年頑張って来られたんですね」

すると・・・

おばあちゃん目から涙がこぼれました。そしておっしゃいました。「そんなことを言われたのはここが初めてです。まさか！と思いましたが振り返ればその通りです。5回目の産後からめまいが出始めました。5人子どもを産んで、2人早産で亡くしました。休めたのは産後1週間。すぐに畑にかりだされ、授乳しながら畑で倒れたこともありました」

50年悩んでいためまいが、太田東西薬局で劇的に改善されました。そのお客様は亡くなるまで私の漢方を愛飲してくれました。

とっても喜ばれました。“神様扱い”されたこともあります(笑)
めまいが治ったこともですが、それよりも

「自分を理解してくれた」「自分の辛かった過去を大切にしてくれた」

おばあちゃん、そのことが嬉しかったのだと思います。

姑に厳しく命令される産後の嫁。かばうことなく、当然の事だとする夫。女は誰でも子どもを産んでいる、特別なことではない。産後に優しくしてもらうなど、もってのほか。

当時の日本がそうした時代だったと言え、それまでですが、しかし“今でも”そうした男尊女卑は散見されます。

表紙のグラフ。妊娠がわかった時の女性ホルモン値は200。それが臨月には100倍の20000になる。この急坂に乗れない妊婦の体に、流産や早産が起きやすい。100倍上昇も大きな変化ですが、最も危険な時は分娩後の変化です。20000から一気に10に急降下するのです。

急上昇は10か月。一方、急降下は分娩の「数時間」です。

例えば、2万円の貯金が突然10円になる！ 200万円がいきなりわずか1000円になる。大激変が分娩後に生じるということです。(；°Д°)

女性ホルモンが真逆さまに落ちる急激な生理現象が、産後の女性の心身に大きく影響することは想像に難くありません。にもかかわらず、医者も夫も家族もそれを最優先にケアすることなく、赤ちゃん優先になる。

「産後クライシス」。ネットで検索してみてください。
子育てを終えた熟年世代の次に多い離婚が「産後2年以内の夫婦」。
その大半の原因にある一つが、妻を労われない無知な夫。

分娩後は授乳のためにオキシトシンというホルモンが分泌されます。
別名「母性ホルモン」と呼ばれるくらい、子どもを護り・慈しむ気持ちにあふれてきます。我が子のためには自分の命も惜しくない。それくらい子どもが愛おしく、かわいい。

そんな“大変身”を遂げている妻をよそに、自分に子育ては関係ないとばかりに、マイペースに振舞う夫。夜間授乳の睡眠不足で疲れもたまっているのに、「ごはん、まだ?」「子ども、泣いているけど」。
子どもが夜中に泣いても、うるさいとばかりに背中を向け、起きて抱っこしようとししない夫・・・。

産後クライシスの背景によくあるエピソードであり、「産後の肥立ち不良」という様々な病気の種を形成してしまうことになる。

オキシトシンは襲われそうになった我が子を守るために、自分よりも強い相手に母親を奮い立たせます。産後の母犬は、熊が来ても立ち向かいます。オキシトシンは時に、母性・慈愛とは対極の
「憎悪」「攻撃」「敵対」という感情を誘発させるということです。

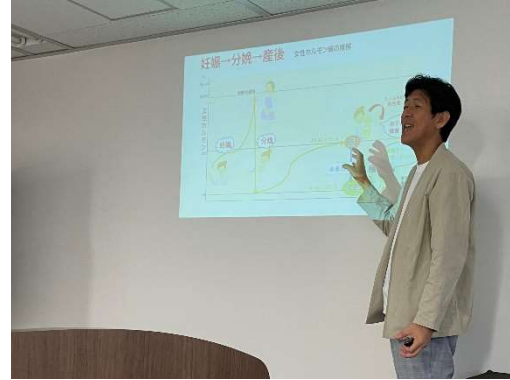
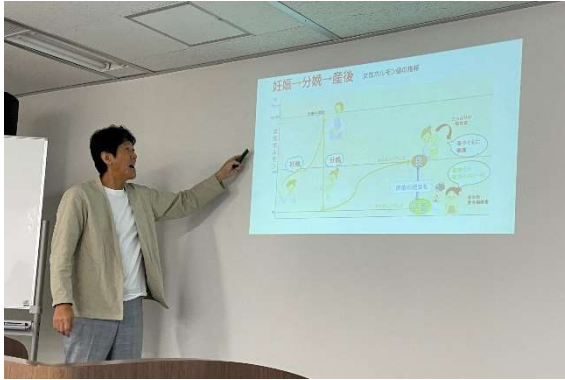
もしも今あなたが、夫に対して敵対心があるなら・・・
優しくされても、素直に喜べないとしたら・・・
辛く悔しかった体験が妊娠中～産後にあったのかもしれません。

「夫は一度も産院にも実家にも、赤ちゃんを見に来なかった！」
「姑から、お猿さんみたいでかわいと言われてムカついた！」
「また男の子か、と実家の父に言われた。絶対に会わせない！」

絶対に許さない！

夫や家族の無関心な態度・心ない発言は、先々「積年の恨み」となって
しまう恐れがあります。

先月、東京で久しぶりに勉強会の講師をしました。
太田東西薬局の柱の一つの「女性の心身の健康」に関する講義でしたが
もちろん、＜妊娠→分娩→産後＞のイラスト図も解説しました。
参加された多くの女性の方々から
「まさに私の人生そのものです」と共感をいただきました。



いまだ日本には、夫が仕事を休んで産後の妻をフォローすることに
懐疑的風潮があると感じます。
男に母性が足りないからなのか？ あるいは男がそんなにバカなのか？

いいえ、すべては「教育」です。
「子作り」は誰に教わることなくできる。しかし健全な「子育て」は
誰かに教わらないと、誰かから学ばないとできないものです。

学んでいない夫婦、理解し合えない夫婦が「産後クライシス」という
不幸な道を歩みかねない。幸せになるために結婚したはずなのに……。

一つの命が誕生して、その命を育てていくとはどういうことなのか？
子どものために、親として如何にあるべきか？

結婚前の男性、妊娠中の妻を持つ男性、子どもを授かったご夫婦に
このイラスト図を用いて太田東西薬局は日々「教育」しています。

